平和をつくる

国際平和研究所（PRIME）設立20周年特集

国際学部設立とともに発足した国際平和研究所。
これまで、その時々に起こる様々な社会問題に対して、
平和とは何かを研究し、その成果を発信してきました。
これからも、国際平和の実現のため、
広い視野をもって取り組んでいきます。

明治学院大学
国際平和研究所
International Peace Research Institute
Meiji Gakuin University

平和学のアジェンダを世界に発信する

国際平和研究所所長、国際学部教授
勝俣 誠

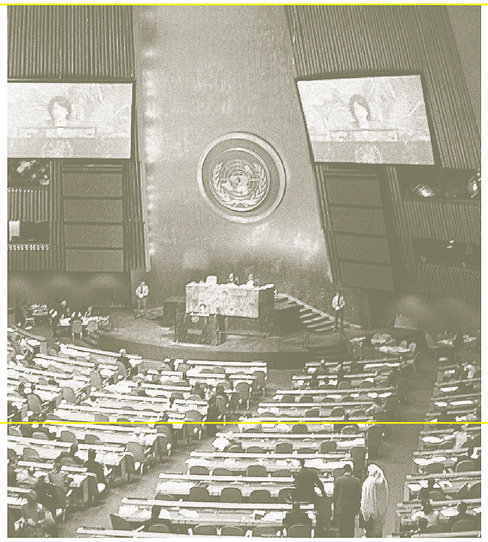
Profile
東京都新宿生まれ。早稲田大学政経学部卒業。開発経済学博士。西アフリカダカール大学などの客員教員を経て、現職。国際平和研究所所長兼任。

冷戦下の核時代の危機、九・一一同時多発テロ事件以来の脅かされる市民の安全と自由、出口の見えないアフガニスタン・イラク戦争、東と南アジアにおける核兵器を含む軍拡競争、広がる国内と南北格差、弱者や貧困国を直撃する金融破綻や地球温暖化。始まったばかりの二一世紀も平和学に対して重い課題をいくつも突きつけています。

私たちPRIMEは、これらのいわば地球的課題を各所員の専門分野から取り組みだして早二〇年が経ちました。ふりかえってみると、時代とともにPRIMEの平和学のアジェンダも様々な変遷を遂げてきました。

時代とともに変遷するアジェンダ

少々の単純化を覚悟して、この二〇年を辿るならば、初代の豊田利幸所長時代は、米国とソ連の核軍拡競争による核抑止戦略がいかに不合理なものであるかを非核軍事化の観点から分析することが主要課題となりました。次の坂本義和所長時代は、冷戦崩壊に伴う新しい地球民主主義が模索されました。更に、米国の圧倒的軍事力を背景とした新しい世界秩序づくりに対し、国際連合はいかなる役割が可能なのかというテーマはとりわけ浅井基文所長時代に取り組まれました。一九九〇年代末になると、グローバル化による貧困格差問題が顕在化し、武者小路公秀所長時代は、自ら深められた「人間の安全保障」概念により、従来の国家安全保障では見えなかったヒトの国際移動における人権問題が新たな研究アジェンダとして登場しました。二〇〇一年の九・一一事件以降は、米国が新たな世界軍事戦略として沖縄の基地を拡充する中で、高原孝生所長時代には、東アジアの非核化展望の下で、沖縄における米軍基地問題に米国の研究者も交えて取り組まれました。他方、グローバル化が、アフリカやアジアや南米の「南」地域の人々の生活にどのような負の影響を与えているか、食糧自給や社会開発の観点からいくつかの国際会議も通して考察されました。



戦争のない世界を実現するために

これらいずれの平和学のアジェンダもそれぞれの専門分野から研究会の形で継続されています。戦争の準備よりも、その原因となる格差・貧困、資源獲得競争、文化・宗教的主張など戦争をしないで、より公正で、より人間的な、かつ地球環境から見ても持続可能な世界をどう実現していくかという課題は、混迷する国際政治経済秩序の中で、平和学の優先課題としてますます重要性を増しています。

世界へ向けて平和学を発信する

この二〇年の貴重な資料収集も含めた研究成果を踏まえて、これからも、所員と内外の協力パートナーとともに世界に向けて平和学を発信する研究所を目ざして国際平和の実現という使命を果たしたいと思います。

「南」の問題を平和、貧困、人権、環境などをキーワードにわかりやすく紹介する『「南」を考える』シリーズ。
2002年3月発行の特別号（左から6番目）は学生たちが制作。

問い合わせ：
国際平和研究所
白金　TEL 03-5421-5652
FAX 03-5421-5653

年に2回発行している紀要『PRIME』
これまでに催されたシンポジウム報告や、様々なテーマに関する研究報告が掲載されています。